

三崎地区

三崎地区学校運営合同協議会事務局
令和6年3月28日発行 第8号

みさき小 Tel 88-2019
三崎中 Tel 88-2423

コミュニティ・スクールだより

～ いるさとの未来を支える三崎っ子 ～

令和6年能登半島地震により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

三崎地区学校運営合同協議会では、今年度も保護者、地域の皆様のご協力を得て活動を行ってきました。年度末にあたり、これまでの皆様のご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。

令和5年度第5回学校運営合同協議会は、当初2月に開催する予定でしたが、震災のため3月に書面にて開催いたしました。資料をもとに、委員の皆様より所属する部会の成果と課題及び来年度に向けての方向性についてご意見をいただきましたので、紹介いたします。

令和5年度第5回学校運営協議会 委員の皆様のご意見

【学習指導支援部会】

- ・地域の方々の協力により、総合的な学習の時間をもたせていただき、自然体のうちに地域のよさを学ばれたことと、地域の方々と交流することにより、地域と共に生きる意味も感じられることができたと思います。
- ・今後も、地域のよさを学ぶことができる人材を発掘し、生かし生かされ、生きる力につなげていくことができたらし思います。
- ・1月1日の震災を体験したことにより、大人も子供もいろんな事を感じ、学びとったと思います。この体験をただ「怖かった」「ひどかった」で終わらせるのではなく、学びとったことを形に表現できないかと思えます。学習指導支援部会では、海岸の地形の変化や生き物の変化、地震が起こるメカニズムなどが考えられるのではないかと思います。

・地域のよさや地域に生きることの意味の体感

・地域人材を生かし生かされ、生きる力の育成
[互恵的な関係]

・経験した震災からの実践的な学びの展開

【生徒指導支援部会】

- ・現状では、家庭学習とメディア対応が中心となることは仕方のないことだと思います。社会的に見ても、メディアの便利さと問題点や危険性があることは、はっきりしてきました。私たちは、劇的な変化が表れなくても社会の変化に対応して、地道に子供たちと共に取り組んでいかなければならないと考えますので、今年度の取組は成果ありだと思えます。
- ・小学校の学習会では、他の児童の親と子供がグループになって話し合う中で、身近な所にリスクが潜んでいることを子供たちに気づいてもらったり、親の立場でも子供の本音を聞ける場になったりしたのではないかと思います。
- ・メディアの時間をへらすといっても、夜は親もスマホを見ていたりして、家族バラバラなことをして過ごす中でどうしても余暇時間をメディアに任せてしまうこととなります。(親が忙しいと助かる面もあります。)

・社会の変化に応じたメディアとの関係づくり

・親や大人と子供とが互いに対話する場
[新たなPTA学習会の形態]

・メディア利用に助けられている面

- ・夕食後や忙しい方は休日だけでも親子でボードゲームやカードゲームと一緒に遊ぶ時間を作ったら良いのではと考えます。新しいものを買わなくても、トランプでも十分盛り上がるし、子供との会話も増え、家族の絆が深まるのが期待できます。メディア以外の楽しい遊びを見つけられる機会をつくるような提案をしていけたら良いと思います。(キャンペーンのような形でも)
- ・メディア利用について、昨年度、三崎中学校に1か月間、ペッパー君の貸出があり、子供たちがコミュニケーションをとって良い関係が生まれたようです。このような人型ロボットの活用でメディア利用について親子で話し合い、互いに納得できるような解決策が見いだせると良いと思います。

・メディア以外でのゲームを家族で楽しく

・新たなコミュニケーションツールの活用

【特別活動支援部会】

- ・今年度、防災学習したことが、今回の地震でどう生かされたのか？また、今後、避難所生活を体験したことで、何が困ったのか？地域の人たちと助け合うことの大切さなど、いろいろ感じたことを話し合っほしい。
- ・三崎中学校の避難所で毎朝、ラジオ体操を実践してくれた子供がいたそうです。高齢者のエコノミー症候群予防にもなり、元気を与えてくれた活動だったと思います。自分に何ができるか考え、行動に移してくれた、すばらしい事例だと思います。

・震災の経験を学びとして

・地域全体が困難な時期に立ち上がった子供たち

【その他】

- ・学校運営協議会について、三崎では、学校を経営するような考え方でなく、応援する考え方があっていいと思います。
- ・部会の名称について、①学習活動支援部会 ②特別活動支援部会 ③家庭・地域生活支援部会とし、現在の名称から指導という言葉をとる。また、支援対象を加える。例えば③ではメディア対応、家庭学習、地域行事など。
- ・今、学校の敷地内に仮設住宅があるので、その距離の近さを活かして触れ合う機会を設ける事で、地元で暮らす安心感を持ってもらいたいと思います。(住民の方にも、子供たちにも)
- ・子供たちのメンタルサポートはもちろんですが、先生方も被災者である事を忘れてはいけません。先生方の家庭の事情で不在の時もサポートできる体制を準備する必要があると思いました。

・学校の応援団

・部会の名称変更で活動内容をより明確化
[「指導」→「支援」]

・住民との新たな関係づくり

・多面的なサポート体制

たくさんの貴重なご意見をいただきました。皆様、被災下のたいへんな状況下でありながら、こうしてご意見をいただきましたこと、心より感謝いたします。いただいたご意見をキーワードとして残し、来年度へつなげやすくしたいと考え、今回は、勝手ながらいただいたご意見の横に見出しをつけさせていただきました。本意とずれがあるかもしれませんが、お許しください。来年度も、みさき小学校・三崎中学校へのあたたかいご支援をおねがい申し上げます。

